

学校配置等の基本的な方向性に
関するこれまでの意見
（東青地区）

平成27年8月

東青地区部会におけるこれまでの意見等

(1) 全日制課程の配置等の方向性

① 普通科等

ア 重点校

《重点校設置について》（特に意見なし）

《重点校設置に伴う単位制、併設型中高一貫教育の方向性》

- ・ 現在、単位制を導入しているのは大学等進学希望者の多い高校だけだが、多様な進路希望の生徒がいる高校への導入も考えるべきではないか。
- ・ 中高一貫教育を検討する際には、何を目的とし、何を求めるのか明確にする必要がある。

《重点校以外の学校との連携の在り方》

- ・ 医師を志す高校生支援事業で三市の中心となる高校が中心校の役割を担い、実績を上げているのを見ると、このやり方はとても良いと思う。
- ・ S G H、S S Hはあくまで国の事業なので、指定されない場合も踏まえ県の事業として体制を整備する必要がある。

イ 普通科系の専門学科の在り方

- ・ 普通科系の専門学科として、人文学などを設置してきたが、それが将来の本県の産業構造を見通したものになっていたのか、学科の見直しを図る上では、検証する必要がある。

② 職業教育を主とする専門学科

ア 拠点校

《拠点校設置について》

- ・ 工業高校の拠点校として、機械系・電気系・建築系・土木系の基本的な学科があれば社会のニーズにも応えられるのではないか。

《拠点校以外の学校との連携の在り方》（特に意見なし）

イ その他の専門学科の在り方

- ・ 意識調査等によると普通科志向が強いようだが、本県の産業構造や高卒後の進路を考えると、工業高校なども残しておくべきであり、普通科、専門学科の募集割合を大きく変える必要はない。
- ・ 現状の東青地区の産業構造を考えると、工業高校は減らしても良いと思う。資格を身に付けても県外へ流出してしまう。
- ・ 商業科で学んだことが、将来の職業にどのくらい繋がっているのか見えにくい。

③ 総合学科

《現状の評価》

- ・ 中学校卒業者のほとんどが高校へ進学している現在、14～15歳の段階で将来を見通している者は多くはない。その意味では、キャリア教育に徹底して取り組んでいる総合学科は時代を先取りしている学科であると言える。
- ・ 総合学科については、県内に総合学科の高校が少ないこと、設置されてから年数があまり経っていないことなどにより、中学生や保護者の理解度が低いのではないかと。
- ・ 総合学科の取組はとても良い。総合学科がもっと増えれば良い。

《今後の方向性（系列の見直し、学科転換など）》

- ・ 総合学科の高校において、教員の数と開設教科・科目を増やすことができれば、選択肢が広がり、生徒にとってより魅力が増すのではないかと。
- ・ 多様な進路希望に対応するためには、教育課程を組む上でも、教員定数においても最低4学級は必要である。

④ 異なる複数学科を有する高校の設置

《今後の方向性》

- ・ 新設による統合や複数の学科を有する高校の設置は良いと思う。

⑤ 高等学校教育を受ける機会の確保のため配置する高校

《配置の考え方》

- ・ 東青地区のほとんどの高校は、JRや青い森鉄道の沿線にあり、容易に移動できる手段がある。
- ・ 公共交通機関で通えるように配慮した学校配置が必要である。

《募集停止等に関する基準の考え方》

- ・ 一定の生徒数がなければ募集停止するという基準については、募集人員に対する割合という表現が良い。それが2分の1なのか3分の2なのかは検討する必要がある。

《募集停止等を行った場合の通学支援》

- ・ 郡部から通う生徒は、コミュニティバスなどで青森市内の高校への通学が可能だが、部活で遅くなれば帰る手段がなくなってしまう。郡部校を統合する場合には、町としても生徒の通学支援策を考えなければならないが、まずは県が方向性を示す必要がある。
- ・ 通学に配慮して配置する高校を残してきたが、寄宿舎を建てた方が財政的にも良かったのではないかと。

(2) 定時制課程・通信制課程の配置等の方向性

《現状の配置への意見》

- ・ 定時制・通信制の高校に入学する生徒は夢ややりたいことを見つけるのに少し時間がかかるだけで、可能性を持っている。卒業後に立派な社会人になっている姿を見ると、定時制・通信制が果たす役割は非常に大きい。

《工業科の方向性》

- ・ 工業高校の定時制を目指している生徒が少ないことや、産業構造の変化、定時制課程で工業科目を履修する限界等についても言及してはどうか。

(3) 統合を検討する際、必要に応じて地域の意見を伺う協議会等

《役割等》

- ・ 生徒数が減少している状況の中で、学校の統廃合については地域関係者等ときちんと話し合っていく必要がある。

《委員構成》（特に意見なし）

(4) 魅力ある高等学校づくりに向けて

- ・ 全国からの生徒募集は、さらにいろいろな工夫が必要だと思う。
- ・ 地域、PTA、大学生等と連携しやすい仕組みづくりが必要である。
- ・ 重点校、拠点校としての機能を十分に果たすためには、教員配置の充実が必要。
- ・ 小規模だからこそできる取組もあり、そのような視点も大切にして欲しい。

学校配置等の基本的な方向性に
関するこれまでの意見
（西北地区）

平成27年8月

西北地区部会におけるこれまでの意見等

(1) 全日制課程の配置等の方向性

① 普通科等

ア 重点校

《重点校設置について》

- ・ 地区の重点校は理系と文系両方の重要な役割を担う位置づけで考えた方がすっきりするのではないか。
- ・ 普通科等の重点校は「オール青森」というよりは西北地区に限定して考えるべきである。
- ・ 五所川原地区で重点校を6学級とした場合、他校はどうなるのかということも考える必要がある。
- ・ 学校規模の標準といっても西北地区は、現在5学級以下の学校しかないため、普通科6学級以上というのがしっくり来ない。

《重点校設置に伴う単位制、併設型中高一貫教育の方向性》

- ・ 単位制を導入すると教職員数が増えるため、どんどん導入した方が良いのではないかという話もある。

《重点校以外の学校との連携の在り方》

- ・ 自分の学校だけが特色ある教育活動に取り組むのではなく、他校に対して指導的な立場になり、自分たちが得たノウハウを他校の生徒とも共有する必要がある。

イ 普通科系の専門学科の在り方

- ・ 社会の産業構造とも関わって理系の希望者が増えており、理数科では課題研究などを行うことから、今後の大学入学者選抜制度にも適合していけるのではないか。

② 職業教育を主とする専門学科

ア 拠点校

《拠点校設置について》

- ・ 農業科や工業科の拠点校に生徒が進学するとなると、周辺の学校は一気に消滅してしまうのではないか。
- ・ 専門学科の拠点校は4学級が標準とされているが、西北地区の場合はそれに合わせるとかなり厳しいため、場合によっては3学級にし、次の段階では異なる学科と統合することも考えなければならないのではないか。
- ・ 専門教育の拠点校に関しては、農業の中では、例えば米づくりはどこの地区というように、西北地区が全部のカリキュラムの拠点校になる必要はない。

《拠点校以外の学校との連携の在り方》（特に意見なし）

イ その他の専門学科の在り方

- ・ 農業高校や工業高校などは、地区に根ざした教育という側面もあるが、県全体としてバランスも考慮する必要があるのではないか。
- ・ 看護師資格を持っていれば、福祉の仕事にも従事できるので、福祉科よりも看護科の設置を考えた方が良いのではないか。
- ・ 生徒数の減少は明らかなので、現在のように普通科、農業科、工業科、総合学科と選択肢がある状態は長くは続かない。

③ 総合学科

《現状の評価》（特に意見なし）

《今後の方向性（系列の見直し、学科転換など）》

- ・ 西北地区にある総合学科は普通科と商業科を合わせたような形であるため、農業科、工業科を含め、全ての学科を選択できる状態に現在はなっているが、このような状態は段々と続かなくなっていくことから、どのような形で整備していくのかじっくり考えなければならない。

④ 異なる複数学科を有する高校の設置

《今後の方向性》

- ・ 普通高校と職業高校の統合は良いと思うが、普通高校同士の統合であればほとんど意味がない。
- ・ 工業科と農業科の統合はあまりピンと来ない。
- ・ 商業関係は木造高校にあるので、将来的には商業・工業・農業系を全部合わせた総合高校ということも検討する必要がある。

⑤ 高等学校教育を受ける機会の確保のため配置する高校

《配置の考え方》

- ・ 他地区は第3次実施計画の中で統廃合がされているが、西北地区は全ての学校が残っている。これは、西北地区の地理的な要因が関わっているものであり、他地区とは事情が異なる。
- ・ 住んでいる地域の高校に進学すれば定員は満たせるのだが、子どもたちの「将来を自由に選択したい」という願いと大人の願いは必ずしも一致していない。
- ・ 西北地区の広さからして、通学できるのであれば問題ないが、広範囲にわたって高校のない地域は作って欲しくない。例えば、深浦校舎や中里高校については交通事情の問題が大きい。
- ・ 深浦校舎を考えると岩崎地区の子どもたちは約半数が能代方面の高校に進学する。一方で深浦町としては行事を実施するにしても高校生がいなければ実施することが困難な場合もあるため、高校との連携も大事にしていかなければならない。生徒数の減少は目に見えているので、思い切って決断しなくてはならないと思う。

《募集停止等に関する基準の考え方》

- ・ あまり基準を明確にしてしまうと、郡部の人たちだけが苦しむのではないか。

《募集停止等を行った場合の通学支援》

- ・ 住んでいる地域によって切実感が違う。今は親が送り迎えすれば通学できる環境になりつつあるが、果たしてそれで良いのか。市だけではなく、県、国で別な形での支援が必要だと考えている。

(2) 定時制課程・通信制課程の配置等の方向性

《現状の配置への意見》

- ・ 夜間定時制の場合には、家庭の事情などがあり、一生懸命勉強したいという生徒が多いように感じるので、夜間定時制はなくして欲しくない。

《工業科の方向性》（特に意見なし）

(3) 統合を検討する際、必要に応じて地域の意見を伺う協議会等

《役割等》（特に意見なし）

《委員構成》（特に意見なし）

(4) 魅力ある高等学校づくりに向けて

- ・ 地域的に小規模校を残さなければならなくなったとき、大学進学に必要な履修に対応するため、遠隔授業も必要になると思う。
- ・ このままではどの学校も規模を縮小するだけになり、デメリットが大きいため、特色ある教育活動に取り組む必要がある。

学校配置等の基本的な方向性に
関するこれまでの意見
（中南地区）

平成27年9月

中南地区部会におけるこれまでの意見等

(1) 全日制課程の配置等の方向性

① 普通科等

ア 重点校

《重点校設置について》

- ・ 弘前高校、弘前中央高校、弘前南高校がそれぞれの特色を活かして欲しい。例えば、弘前高校は医師やリーダー等を目指す生徒を育成したり、弘前中央高校と弘前南高校もコース制としたり、理数教育等の重点校とすることなども必要ではないか。
- ・ 現状において進学に向けて成果を上げている学校でも、さらに特色を出さないと学級数が確保できなくなるということでは納得いかない。また、重点校の看板を出すことは、教師にとって重荷になる。
- ・ 中学生の希望は重点校や拠点校に集中するのではないか。

《重点校設置に伴う単位制、併設型中高一貫教育の方向性》

- ・ 併設型中高一貫教育に魅力を感じるが、弘前市にはすでに弘前大学附属中学校があり、市立中学校のレベルや意識の低下に繋がっているとの指摘もある。
- ・ 弘前大学附属中学校があるために併設型中高一貫教育ができないのであれば、弘前大学とも話し合いをしながら検討を進めることも考えたい。

《重点校以外の学校との連携の在り方》（特に意見なし）

イ 普通科系の専門学科の在り方

- ・ 中南地区は、職業教育を主とする専門学科の割合が高いことから、普通科の削減は避けたい。

② 職業教育を主とする専門学科

ア 拠点校

《拠点校設置について》

- ・ 全てが拠点校になる必要はなく、どの学校を拠点校とするかは、各学校で話し合いが必要。

《拠点校以外の学校との連携の在り方》（特に意見なし）

イ その他の専門学科の在り方

- ・ 地区の生徒数が減少していく中で、専門高校の学科も精査しなければならない。
- ・ マーケティングや経理も分かり、農業で自営できる人財を育成する必要がある。
- ・ 工業高校は、基礎基本をしっかりと身に付け、専門科目のレベルを上げる指導を行っており、大学への進学は、専門分野の知識・技能を活用した推薦入試による場合が多い。

- ・ 中南地区の商業科は、これまで弘前実業高校と黒石商業高校が共存し、地域に根ざしてきたが、これからの生徒急減期を考えると難しい面がある。
- ・ 看護科の卒業生は5～6割が県内に就職しており、関東に就職した生徒も大きな病院で経験を積み、いずれは地元に戻りたいという希望を持っている。北東北の公立高校では唯一の看護師養成施設であることから、黒石高校看護科の重要性は高い。

③ 総合学科

《現状の評価》（特に意見なし）

《今後の方向性（系列の見直し、学科転換など）》（特に意見なし）

④ 異なる複数学科を有する高校の設置

《今後の方向性》

- ・ 農業高校と普通高校の統合はあり得る。必ずしも工業高校、商業高校が単独で残っている必要はなく、子どもの学びたい内容が学べる環境があり、また通学環境が確保されているということが重要である。

⑤ 高等学校教育を受ける機会の確保のため配置する高校

《配置の考え方》

- ・ 保護者としては学校選びの際、通学の時間や費用を考慮する。
- ・ 定員割れによる高校の募集停止、統合についてはやむを得ないと思う一方、自分たちの地域に高校があるというのはある意味文化である。高校がなくなると地域の活力が低下する可能性があり、高校がなくなることに対する不安もある。
- ・ 通学の問題で進学が危ぶまれるという状況は、中南地区に関してはあまりないのかもしれない。そういう意味では恵まれた地区である。

《募集停止等に関する基準の考え方》

- ・ 統合に関する基準があれば地域も仕方がないと思うのではないか。
- ・ 基準があるとそれが前提となってしまう。市町村教育委員会でも小・中学校の統廃合の基準があるが、地域の実情に応じて柔軟に対応しているので、県においても柔軟な対応が必要である。
- ・ 学級数を減らさず高校においても35人学級を行うなどの検討をお願いしたい。

《募集停止等を行った場合の通学支援》

- ・ 通学支援に関しては、市町村や家庭等に任せるのではなく県の支援も必要である。

(2) 定時制課程・通信制課程の配置等の方向性

《現状の配置への意見》

- ・ 弘前市内から尾上総合高校を選択して進学する生徒もいるが、Ⅲ部（夜間）に通学する場合、帰宅は午後10時過ぎとなり、女子生徒は特に心配である。
- ・ 尾上総合学校のⅠ部・Ⅱ部（午前・午後）は、発達障害等のある生徒の受け皿にもなっている。

《工業科の方向性》

- ・ 弘前工業高校定時制課程の生徒数は減少していないが、工業実習の対応が難しい生徒もいることから、普通科とすることも含め、在り方を検討する必要がある。
- ・ 定時制課程の工業科は女子が希望しづらい。弘前市内の工業高校であっても定時制は普通科となれば志願者も増えると思う。

(3) 統合を検討する際、必要に応じて地域の意見を伺う協議会等

《役割等》（特に意見なし）

《委員構成》

- ・ 中南地区全体でこの問題について考えていかなければならないので、地区の市町村長あるいは教育長も含め、集まって意見を述べる機会を設けていきたいので、対応していただくと有り難い。

(4) 魅力ある高等学校づくりに向けて

- ・ 高校教育を受ける機会を確保するためにも、学級数を減らさずに、全体でクラス数を減ずる方法として、高校においても県独自で35人学級を行うなど、検討をお願いしたい。

学校配置等の基本的な方向性に
関するこれまでの意見
（上北地区）

平成27年8月

上北地区部会におけるこれまでの意見等

(1) 全日制課程の配置等の方向性

① 普通科等

ア 重点校

《重点校設置について》

- ・ 重点校や拠点校という形を取って、全ての学校のレベルを上げるということは非常に良いと思う。

《重点校設置に伴う単位制、併設型中高一貫教育の方向性》

- ・ 併設型中高一貫教育については、選抜性の高い大学を目指すような学校でなければ厳しいと思う。
- ・ 現在単位制に取り組んでいる学校は、本来の単位制ではないと思っている
- ・ 併設型中高一貫教育が議論になっているが、中等教育学校という発想はないか。

《重点校以外の学校との連携の在り方》（特に意見なし）

イ 普通科系の専門学科の在り方（特に意見なし）

② 職業教育を主とする専門学科

ア 拠点校

《拠点校設置について》

- ・ 生徒数が減少する中で、拠点校という考え方は必然に出てくるものだと思う。
- ・ 上北地区では、特に農業を大事にする必要がある。

《拠点校以外の学校との連携の在り方》（特に意見なし）

イ その他の専門学科の在り方

- ・ 地域としては、少子高齢化に伴って、介護士や医師は将来的に必ず必要だろうし、専門職に就く人も必要になる。
- ・ 上北地区としては、普通高校、農業高校、工業高校、商業高校、総合学科の高校があり、バランスが良くとれている。
- ・ 学科に関しては、上北地区はバランスが取れていて、工業、農業、商業、食物調理科ともに必要だと思う。

③ 総合学科

《現状の評価》（特に意見なし）

《今後の方向性（系列の見直し、学科転換など）》

- ・ 総合学科は中途半端な感じがするし、生徒数が少なくなれば総合学科は非常に厳しいので、見直しも考える必要があるのではないか。

④ 異なる複数学科を有する高校の設置

《今後の方向性》

- ・ 専門高校に関しては、その専門性の教育推進という観点から単一校が望ましいので、まとめる必要はないと思う。
- ・ 他県を見ると工業系、商業系、農業系が一緒になった学校もあるので、うまくまとまることによって、良いこともあるのではないかな。
- ・ 複数学科の併設などは、今後の多様な社会に対応していくためにとても重要ではないかな。

⑤ 高等学校教育を受ける機会の確保のため配置する高校

《配置の考え方》

- ・ 「地理的要因から高等学校に通学することができない地域が新たに生じないよう配慮」するということは非常に大事だと思う。進路の選択肢に恵まれていない地区の生徒、保護者が高校を選択するときに困らないようにすべきである。
- ・ 学校だけではなくて、交通機関を含め、地域として高校をサポートしていく体制を作っていく必要がある。

《募集停止等に関する基準の考え方》

- ・ 統廃合の一定の基準というのは間違いなく必要で、意見交換の場も必要だと思う。
- ・ 1学級規模の学校の廃止の場合は基準が必要だと思う。
- ・ この基準は、募集停止や統合を話し合うタイミングを示したもので、直ちに統合ということではなく、協議会などを設けたうえで結論を出すべきである。

《募集停止等を行った場合の通学支援》

- ・ 十和田市内に遠隔地からの生徒向けの寮をつくることも考える余地はあるのではないかな。
- ・ 異なる市町村にある高校を統合する場合、市町村の通学支援等、配慮すべきことが多々ある。

(2) 定時制課程・通信制課程の配置等の方向性

《現状の配置への意見》

- ・ 全日制課程の高校に通うことのできない不登校の生徒が通うという現実を踏まえて定時制課程、通信制課程の充実に取り組んでもらいたい。

《工業科の方向性》

- ・ 定時制課程の工業科については、教員配置を充実できなければ廃止もあると思う。

(3) 統合を検討する際、必要に応じて地域の意見を伺う協議会等

《役割等》（特に意見なし）

《委員構成》（特に意見なし）

(4) 魅力ある高等学校づくりに向けて

- ・ 専門学科同士の連携によって、さらに学校の可能性は広がっていくのではないか。
- ・ 1学級あたりの生徒数について弾力的な対応はできないか。
- ・ 通学困難な地域の学校や教職員が充分配置できない学校では、ICTを活用することもあるが、これが主になるのではなく人対人の教育が大切である。ICTを活用した研究を進めることで格差が埋まればよいと思う。

学校配置等の基本的な方向性に
関するこれまでの意見
（下北地区）

平成27年8月

下北地区部会におけるこれまでの意見等

(1) 全日制課程の配置等の方向性

① 普通科等

ア 重点校

《重点校設置について》

- ・ 地域で求められる人財の育成のため特化した教育課程を編成できる重点校を設けることは必要である。
- ・ 重点校として6学級以上が望ましいと考えるが、地域の実情に照らし、近隣学校と連携する重点校の機能は5学級でも果たすことは可能である。

《重点校設置に伴う単位制、併設型中高一貫教育の方向性》

- ・ 医師を志す生徒、就職を目指す生徒など、生徒の多様なニーズに応える観点から、全日制普通科単位制を拡充できないか。

《重点校以外の学校との連携の在り方》（特に意見なし）

イ 普通科系の専門学科の在り方

- ・ 近年、普通科であっても英語科と同じような英語力が求められるようになってきており、英語科の特色化は難しい。
- ・ 英語科単独募集では今後も定員割れが続くことが懸念され、解決方法としてくくり募集の導入も選択肢の一つとして考えたい。

② 職業教育を主とする専門学科

ア 拠点校

《拠点校設置について》（特に意見なし）

《拠点校以外の学校との連携の在り方》（特に意見なし）

イ その他の専門学科の在り方

- ・ ものづくりの感性を磨くには15～16歳の時期が最適であり、この時期に工業を学ぶ意義は大きく、下北地区に工業科は必要である。

③ 総合学科

《現状の評価》（特に意見なし）

《今後の方向性（系列の見直し、学科転換など）》

- ・ 下北地区には、普通高校、工業高校、総合学科の高校が必要である。ただし、望ましい総合学科にするには、より多くの人、物、予算が必要である。

④ 異なる複数学科を有する高校の設置

《今後の方向性》

- ・ 生徒数が減少していく中で、小規模校を残すよりは、複数の学科を設置した高校とし、連携した方がうまくいくと思う。

⑤ 高等学校教育を受ける機会の確保のため配置する高校

《配置の考え方》

- ・ 地理的なハンディキャップや経済的問題を抱えている生徒がいるが、誰一人可能性を摘んではならず、現在ある進路の選択肢以上のものが必要であると考ええる。
- ・ 他校への通学が困難な地域としては、大間地区や川内地区が考えられる。

《募集停止等に関する基準の考え方》

- ・ 募集停止に関する具体的な基準を示す必要がある。基準を示せば、理解する地域の人もいると思うが、不満な気持ちはあると思う。

《募集停止等を行った場合の通学支援》

- ・ 市町村等との連携による生徒の通学環境の充実に関して、子どもたちにとって良いのはスクールバスの運行だと思う。
- ・ むつ市では高校生に対して奨学金を貸与している。
- ・ 川内校舎は旧むつ市から入学している子どもが多くいるが、通学のためのバス代の負担が大きい。近くの生徒が通えるように例えば定員20名くらいの分室のようなものを作るなどフレキシブルな配置を考えられないだろうか。

(2) 定時制課程・通信制課程の配置等の方向性

《現状の配置への意見》

- ・ 定時制課程及び通信制課程の配置については、現状のまま、継続して欲しい。
- ・ 通信制課程は不登校を経験している生徒も多い。それらの生徒にとって通信制課程の存在は大切である。

《工業科の方向性》

- ・ 工業科の定時制課程を見直すとあるが、これが将来的に廃止という意味合いを含んでいるのであれば、工業高校の作業等の活動を通して成長を遂げる生徒もいることを配慮して欲しい。

(3) 統合を検討する際、必要に応じて地域の意見を伺う協議会等

《役割等》

- ・ 地域との協議は必要。結論ありきではなく丁寧に何度も協議を重ねてお互いの理解を深める必要がある。

《委員構成》（特に意見なし）

(4) 魅力ある高等学校づくりに向けて

- 生徒同士の交流が大切。また学校間での課外活動等の交流を通して情報発信できると思う。
- 生徒が減少している中であって、様々な地域から生徒を募集することは良いと思うが現実的には非常に難しいと思う。そのような場合には高校の所在する自治体の協力が必要になる。また、魅力ある教育課程を編成することが必要になる。

学校配置等の基本的な方向性に
関するこれまでの意見
（三八地区）

平成27年8月

三八地区部会におけるこれまでの意見等

(1) 全日制課程の配置等の方向性

① 普通科等

ア 重点校

《重点校設置について》

- ・ 重点校や拠点校を設置することは良いことだと思う。

《重点校設置に伴う単位制、併設型中高一貫教育の方向性》

- ・ 本県で併設型中高一貫教育校を広げていくには、設置する地区などを慎重に検討しなければならないが、設置する価値があることは確かである。
- ・ 併設型中高一貫教育については、導入すべきだと思う。青森高校、弘前高校、八戸高校の三校が県内の学校を引っ張っていくという意味で一つの方法ではある。
- ・ 単位制の新たな導入については、理念どおりに本当にできるのかどうかを検討する必要がある。

《重点校以外の学校との連携の在り方》（特に意見なし）

イ 普通科系の専門学科の在り方

- ・ 普通科系の専門学科の在り方について再検討すべきではないか。

② 職業教育を主とする専門学科

ア 拠点校

《拠点校設置について》

- ・ 拠点校を作ってそのノウハウを波及させることができるならば、当地区については、水産科以外は必ずしも拠点校を置く必要はないと思う。
- ・ 重点校や拠点校を設置することは良いことだと思う。（再掲）

《拠点校以外の学校との連携の在り方》

- ・ 拠点校も多く設置することはできないので、拠点校とそれ以外の学校との連携が重要だと思う。

イ その他の専門学科の在り方

- ・ 農業高校や工業高校からも大学に進学する生徒が増えてきていることを考えると、大学受験に対応した授業をしていくことが必要であり、確かな学力が求められている。

③ 総合学科

《現状の評価》（特に意見なし）

《今後の方向性（系列の見直し、学科転換など）》（特に意見なし）

④ 異なる複数学科を有する高校の設置

《今後の方向性》

- ・ 異なる学科の高校の統合により複数の学科を有する高校を設置することについては、学科によって設備が大きく異なるため、教育環境を考慮する必要がある。

⑤ 高等学校教育を受ける機会の確保のため配置する高校

《配置の考え方》

- ・ 募集停止については、ダイレクトに通学できない地域ができないように配慮すべきである。
- ・ 田子高校がなくなった時に、交通費などの事情で他の近隣の高校に全員が通えるのだろうかということを考えると、田子高校の存在意義はとても大きいと感じる。

《募集停止等に関する基準の考え方》

- ・ 募集停止や統合をすることは、当該高校の卒業生にとってショックを受ける出来事になるだろうが、やらなければ仕方ないことだと思う。そのような卒業生などが不満を抱かないためにも、前置きとなる基準は必要だと考える。

《募集停止等を行った場合の通学支援》

- ・ 遠距離であっても、生徒自身が志望する高等学校に通学できる施策、例えば、スクールバスの運行や寄宿舎の設置などについて、検討する必要があるとあるが、そのとおりだと思う。
- ・ 通学環境への配慮について、市町村の財政支援や市営バスの運行等、県が市町村等をお願いすることが今後あり得ると思う。市町村の協力も必要である。
- ・ 通学支援については、例えば下宿にかかる費用の補助や、市外から通う生徒に対して交通費を補助することなどが考えられるが、県でできることと市町村でできることを明確にするべきである。

(2) 定時制課程・通信制課程の配置等の方向性

《現状の配置への意見》

- ・ 定時制は高校教育を受ける機会の確保として必要であり、6地区に置くことも賛成である。

《工業科の方向性》

- ・ 定時制課程の工業科についてであるが、生徒数が極めて少ない状況において継続していくのは難しいのではないかと。

(3) 統合を検討する際、必要に応じて地域の意見を伺う協議会等

《役割等》

- ・ 広くいろいろな意見を聞くことが大切である。それが直接反映される、されないに関わらず、広い範囲で意見を聞くべきである。
- ・ 協議会として計画作成段階から地域の意見を聞くことが必要である。単に県教委で計画したものを説明するだけでは、地域からの批判も多くなる。

《委員構成》（特に意見なし）

(4) 魅力ある高等学校づくりに向けて

- ・ 中学生や小学生に対して、自分の住む地域の高校での学びについて情報発信をすると良いのではないか。
- ・ 商業高校で何を学んでいるのか理解されていない部分もあり、中学校に対して情報発信をしている状況である。専門高校に行っても進学できるということをアピールすることが必要だと思う。
- ・ 全国からの生徒募集をやるなら、どの学校で全国募集を行うかということも含め、相当本気になってやらないといけない。